

# 子ども会においで！

龍谷大の学生が京都に一時避難する子どもたちと触れ合う

「震災で避難している子どもたち、  
集まれ！」

宗門関係の龍谷大学の学生有志が先頃、東日本大震災復興支援プロジェクト「東北子ども会」を立ち上げた。故郷を離れて京都で避難生活を送る福島や宮城の子どもたちと触れ合いのひとときを過ごしてもらい、思い出作りや友達の輪を広げるサポートをしようというもの。

プロジェクトは今年8月にスタート。地元NPOやボランティア団体と協力して、伏見の街歩きや京都銘菓・八ツ橋作りなどを企画、子どもや保護者らと交流を重ねている。

11月12日には被災者約80世帯が暮らす京都市内の公営団地で清掃活動を実施。共有スペースや駐車場の隅にたまった落ち葉や雑草を丁寧に取り、奉仕活動を行った。子どもたちは面白いお兄さん、優しいお姉さんと談笑しながら元気に落ち葉を集めていた(写真)。

また団地の広場では、民間ボランティア団体「一步の会」(松本仁代表)らが、東北の秋の風物詩「芋煮会」を開催。子連れで避難する母親らが調理を担当し、参加した150人にサトイモやダイコン、ゴボウなど野菜たっぷりの郷土の味を振る舞った。宮城県人会による余興も



あり、暖かい芋煮の器を囲みながら近況や故郷への思いなどを語り合う人の輪がいくつもできた。

福島市から避難する母親は「子どもへの放射能被害を防ぎたい一心で、夫と相談して母子で自主避難した。慣れない土地での生活に不安も大きいですが、ボランティアの方や子どもたちのことを考えてくれる学生さんたちの気持ちは本当にありがたい」と話し、屋外で元気に走り回る子どもたちの姿に目を細めていた。

子ども会は月1回開催を予定、来年3月には2泊3日の「京都観光ツアー」を計画している。